

令和 2 年度 8020 公募研究報告書抄録（採択番号：20-01-06）

研究課題: 歯科口腔外科従事者・患者における SARS-CoV-2 抗原・抗体保有率の多施設疫学調査
研究者名: 古賀陽子 1、里見貴史 2、佐々木亮 1、宮本範子 1

所属: 1. 東京女子医科大学 歯科口腔外科学講座 口腔顎顔面外科学分野
2. 日本歯科大学生命歯学部 口腔外科学講座

【背景・目的】2019 年 12 月に中国の武漢市において確認された新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）が猛威を振るい、新型コロナウイルス感染症として終息することなく未だに全世界を脅かしており、ウイルス伝播阻止対策が急務である。特に歯科口腔外科領域での治療においては、患者と近接であり患者からの飛沫を暴露される機会が多いだけではなく、微小飛沫（エアロゾル）による感染リスクが高いとされている。さらに不顕性感染者からの感染が発生しやすい医療行為であり、感染リスクが最も高い職種として歯科医師が挙げられている。厚生省医政局歯科保健課や ADA（アメリカ歯科医師会）は標準予防策の徹底を促してはいるものの歯科口腔外科領域におけるエビデンスに基づいた感染対策は殆ど無いのが現状である。

本研究では、新型コロナウイルスの接触感染およびエアロゾルを含む飛沫感染が最も高いと考えられている歯科口腔外科領域において、医療を提供している従事者および歯科口腔外科受診患者の SARS-CoV-2 抗原・抗体保有率の評価を行い、歯科口腔外科従事者と患者の両者が安心して歯科口腔外科治療を行える体制を導くことを目的とした。

【方法】東京女子医科大学（倫理審査承認 No, 2020-0042）、および日本歯科大学（倫理審査承認 No, NDUH-RINRI2020-17, No, NDU-T2020-44）の倫理委員会の承認後、歯科口腔外科従事者（歯科医師、歯科衛生士、看護師、歯科技工士）および歯科口腔外科受診患者に同意説明文書を用いて説明し同意を得られた者（新型コロナワクチン接種前）を対象とした。被験者のサンプルを用いて抗原検査（鼻咽頭ぬぐい液を用いてエスプライン®SARS-CoV-2（富士レビオ）キットにて測定）、抗体検査（血清を用いて HISCL SARS-CoV-2 S-IgG, N-IgG, S-IgM, N-IgM の 4 種類行った[シスメックス株式会社に検査委託]）を行い、統計解析を行った。

【結果・考察】同意が得られた対象者は、抗原検査においては、医療従事者 65 名、患者 26 名、抗体検査においては、医療従事者 111 名、患者 26 名であった。全被験者に SARS-CoV-2 抗原を保有している者はいなく 0%であった。抗体検査については、全検体 137 例のうち、陽性検体は延べ 5 検体（1 検体のみ 2 抗体陽性）であった。陽性数の内訳は、S-IgG が 1 検体(0.9%)、N-IgG が 3 検体(2.7%)、S-IgM が 1 検体(0.9%)であった。陽性検体はすべて日本歯科大学の医療従事者であった。両施設の患者に抗体陽性者は認めなかった。抗体陽性 4 名のうち 3 名は新型コロナウイルス感染既往者であり、1 名は濃厚接触者であった。4 名とも施設規則に則り感染期間中は診療には従事していなかった。施設別の医療従事者においては S-IgM と N-IgM で有意差（ $P<0.0001$ ）を認めた。医療従事者と患者群においては、S-IgM のみに有意差を認めた（ $P<0.0001$ ）。本研究では、抗体陽性者はいずれも新型コロナウイルス感染既往や濃厚接触既往のある者のみが陽性であり抗体陽性経路が不明であった被験者はおらず、両大学における診療体制を今後も同様に継続することで安心した医療が患者に提供できると考えられた。